

**SSKP** 船橋障害者自立生活センター

2014年2月

# うえいぶニュース



〒273-0005 船橋市本町2-4-4 花島ビル1F TEL: 047-432-4554 / FAX: 047-432-4565  
URL: <http://www.cil-funabashi.org/> E-Mail: [cil-funabashi@cil-funabashi.org](mailto:cil-funabashi@cil-funabashi.org)

## 年頭にあたって

早いもので2014年も一ヶ月が過ぎました。

新年にあたって私達の自立生活センターが今後の課題として取り組むべき項目について少し考えてみたいと思います。

年明け早々、千葉県から委託を受けて3月に実施予定のピアサポーター養成研修講座の準備などに追われています。この事業は今回で3回目となりますが、補助事業として行なった過去2回と同様に、長年培ってきたピアカウンセリングの手法や考え方を生かして、充実した講座にしたいと考えています。後に続くページをご参照の上、是非多くの方のご参加をお待ちしております。

この講座を含めてピアカウンセリングやピアサポーターの講座は重要な活動と考えています。今年も障がい者同士でサポートし合う関係を大切にしながら、活発な講座にしていきたいと思っています。

活動の2本目の柱は相談支援事業です。昨年4月に船橋市の指定をいただいて、事業を再開しました。既に何人かの方からサービス等利用計画の作成を依頼されて、少しでも生活が豊かになるように願って計画を考えています。今年は児童の計画相談も実施できるようにしたいと考えています。あくまでも、地域で生活する当事者の立場に立って計画を考える事業所として活動できる体制を作っていきたいと思っています。

「地域で生活する」と言えば、3本目の柱としてグループホームの運営に参入できないか検討を始めました。親元や施設にいて地域に出ることを願っていないながら、様々な不安があって実行に移すことができない障がい者が数多く存在します。そんな人たちにとって安心して利用できるグループホームがあれば、地域で生活する手段として有効だと考えるようになりました。折しもグループホームとケアホームの制度上の一本化が図られることとなり、多くの介助を必要とする人たちにとってもニーズに叶う形になりつつあります。実際に設置運営となれば、まだ高いハードルが待ち構えていることと思いますが、重い障がいを持つ人たちが地域で生きる夢を実現するために、必要な条件をクリアできる方法を考えていきたいと思っています。

以上、主な活動課題を考えてきましたが、何と云ってもその土台となるのは、事務局体制の確立です。新しい年は腰を据えて事務局の強化にあたりたいと考えています。引き続きご支援とご協力をお願い致します。

## 代表のぼやき・・・

### ～ 今年もぼやくゾー！ ～



年が変わったからといって何が変わる訳でもないのですが、変わらなくて困っていることについて、ぼやいてみたいと思います。

私が住んでいる地域は道路が複雑に入り組んでいることで有名な地域です。道路が複雑なだけではなく、歩道がほとんど整備されていません。自立生活センターの事務所に通うのに電動車イスで約15分ですが、安心して走れる道はほとんどありません。千葉と東京を結ぶ国道を通ることが多いのですが、歩道は1メートル半弱しかなく、車イスがすれ違うことはできません。おまけに自転車が時に猛烈なスピードで向かってくることもあり、気の休める暇がありません。さらに、自動車が歩道に半分乗り上げた状態で止まっていることも多く、やむを得ず行き交う車の間を縫って車道を走ることもしばしばあります。加えて、ただでさえ幅の狭い歩道の真ん中に電柱が立ちだかっている箇所が幾つもあり、私の通勤はまるで「障害物競走」のようです。

時にはそんな危険を避けたくて、裏道を選ぶこともあるのですが、こっちはこっちで舗装が荒れていたり、急な凸凹があったりで、やはり安心して走るといった状況ではありません。また、もし電動車イスに突然のトラブルがあったときに人通りの少ない場所を通るのは逆の意味で危険があるという気持ちもあり、毎日どの道を通って通うのか、大袈裟に言えば悩みは絶えない状況にあります。

道路状況が改善されるのが一番の解決策だとは思いますが、電柱の地中化や自転車に乗る人のマナーの問題等もあり、どれか一つだけ解決すれば済むという訳にはいかないような気がしています。歩道に車を止めるドライバーの問題も含めて、法律上は歩行者という位置づけがある車イスがヒヤヒヤ・ドキドキする状況を抜け出して、安心して通行できる環境が実現しない限り本当の意味で「健康福祉都市」とは言えないのではないのでしょうか？

## 第3回障害者ピア・サポーター養成研修講座 開講のお知らせ！！

標記について、当法人として第3回目の講座を開講することになり、受講者の募集を始めました。ご希望の方は早目にお申し込みください。今回から千葉県委託事業として行い、千葉県から修了証が出ます。従って、受講後の活躍の場について、県下の関係機関にご協力を依頼します。当方の主体事業でないため、県外の方には聴講生として対応させていただきますので、ご了承ください。

日程は下記のとおりで、船橋駅から近い船橋中央公民館を会場とし、今回も多彩な講師陣にご協力をいただくことになりました。熟達したピア及びスクールカウンセラーに加え、障害者とともに歩む教育者、臨床心理士という方々です。きっと皆様の人生のターニングポイントになると確信しています。皆様のご参加を心から歓迎いたします。定員は25名で先着順とさせていただきます。申込方法は、先ず当方に、FAX、メール、電話などでご連絡ください。申込書等の資料を送付致します。

### 開催要項

日 時：2014年3月6日～20日（毎週木曜日・全三回・13:30～16:00）

会 場：船橋市中央公民館・4階体育レクリエーション室

受講資格：千葉県内にお住いの障がい（種別や程度は不問）当事者で、他の障がい者の話を聞いて精神的なサポーターとしての活動を希望する方。

＜県外の方で、受講を希望される方には相談に応じます。＞

介助者他：送迎等の介助は受講者手配とします。但し、手話通訳等の手配には、ご相談に応じます。

受講後の対応：受講終了後、千葉県より修了証明書が発行されます。また、県下の市町村及び  
基幹型相談支援事業所等へ受講者名簿を送付し、活動する場の提供依頼をします。

参加費：無料

お申し込み：別紙申込書に必要事項をご記入の上、2月20日までにお送り下さい。

### 第3回ピア・サポーター研修養成講座 日程表

	第1時限目 13:15～14:45 (但し20日は60分)			休憩 10分	第2時限目 14:55～15:55 (但し20日は90分)		
	最初の10分は連絡事項(開講式)等				最後の10分は連絡事項(修了式)等		
	項目	講師	その他		項目	講師	その他
3月6日 (木)	開講オリエンテーション ピアサポートの意義	伊藤貴子さん	補助：杉井、 小林	☆♪	障害種別の特性(精神障害)について	須合俊哉さん	補助：盛根、 杉井
3月13日 (木)	傾聴の技法について	寺田節子さん	補助：盛根、 杉井	☆♪	障害種別の特性(身体障害)について	藤田香さん	補助：田尾、 杉井
3月20日 (木)	障害種別の特性(知的障害)について	中西あつ子さん	補助：盛根、 杉井	14:15 ～ 14:25	ピアサポーターの心得について、 補講及び修了式	杉井、小林	補助：盛根、 田尾

＜申し込み先・お問合せ先＞

特定非営利活動法人 船橋障害者自立生活センター

〒273-0005 船橋市本町2-4-4 花鳥ビル1階

Tel: 047-432-4554 Fax: 047-432-4565

Eメール: cil-funabashi@cil-funabashi.org (担当: 杉井)

## 第19回障害者週間記念事業 障害者作品展に参加しました

私は12月7日～8日に船橋市の中央公民館で開かれた障害者週間の作品展に、WAVEの一員として参加しました。

作品展の準備の段階で、WAVEのスタッフの皆さんが「阿部さんの似顔絵を売ろう！」とおっしゃって下さったので、私は初めて似顔絵を販売することになりました。

今までは趣味で友達の似顔絵を描いてその人にプレゼントしていたのですが、今回は初対面の人を相手に、お金をいただいて描かせていただくという、人生初の試みでした。

当日は緊張のあまり、当初予定していた墨絵が不調でうまく描けず、一度家に帰って水彩色鉛筆と画用紙をとってきて、新たにその画材で描いたところ、お客さんにとても喜んでいただくことができました。

当日は、私の絵のほかに田沼さん作のクリスマスカードや年賀状、宮尾さんの詩と、塩崎君の編み物の販売と、根岸さんの手芸作品、高橋さんの革製品、伊藤さん作成のカレンダーなど、WAVEの皆さんの作った作品をずらりと並べて販売し、大変好評でした。また石川さんは、お隣になったワークアイさんとコラボして、ワークアイさんの作った点字名刺にWAVEのパソコンで名前を入れるなど大活躍しました。

作品展ではWAVEのメンバーがそれぞれの持ち味を生かして頑張っただけでなく、初めて会った方々といろいろな話ができただけでなく、とても良い経験になりました。2日間みんなを支えてくださったスタッフのみなさん、ありがとうございました。みんなで作り上げた障害者週間、来年もWAVEの皆さんと、新たな企画で参加したいと思っています。

阿部正幸（WAVE 利用者）

この7年間で作品展も随分変わりました。特にここ1年間での変化は大きいです。

これまでは各作業所や福祉施設の日々の活動を公に「発表する場」でした。おまけ的に各施設で創られた成果物（手芸品や工芸品、芸術品、印刷物など）の展示をしていました。

しかし今では、それらに金額的な価値「値札」が付いて、購入することができるのです！！ 作品展が「販売する場」も提供してくれているのです。

ようやく「自分の作品や労働を売って、得たお金で自分が欲しいものを買う」という当たり前の行為ができるようになってきたのです！！

以前から障がい者の創り出す「モノ」や「コト」（詩や似顔絵、批評文など）の「価値」を僕は感じていて、積極的に販売することに賛成でした。この日本社会の「障がい者は経済活動に参加すべきではない」ような雰囲気をごくどうにかして変えたいと思っていました。障がい者たちは、「働く喜び」を知らない人がたいへん多いのです。。

まだまだその「動き」は始まったばかりです。これからの景気の変動にも左右されるでしょう。でも、障がい者にできることはどんどん障がい者に任せてください。日本の経済活動の「役割分担」の中に障がい者を組み込んでいってください。お願いします。

「同情するなら、仕事くれ。。。」です。

石川成男（WAVE ボランティア）

# ふなばし福祉まつり in イオンモール船橋 に参加しました

福祉祭りに出展する作品を手伝ってもらえませんか？と声をかけていただき、興味をもちました。

自分たちの活動を知ってもらえるチャンスなのと、作品作りに魅力を感じたからです。作品は手伝うだけでなく、自分でも発案してみたいと、わくわくしながら考えました。ちょうど実家に余っていた皮紐でプレスレットを作ったら若い人たちにも買ってもらえるのではないかと思いつき、とても楽しい気分になりました。指導員の方に相談したところ受け入れてもらったので、意欲が沸きました。作り方をネットで検索したり、実際に試作品を深夜まで作ったりと夢中でした。

試行錯誤を繰り返し、アドバイスをもらったりして、プレスレットが形になったのは、とてもうれしかったです。それまではなかなか作業所に来ることができなかった私も、目標を持つことで顔をだす機会がぐっと増え、自分でも驚くほどでした。指導員の方に背中を押してもらい、羽ばたけました。

福祉祭り当日も少し会場に立ちましたが、とても楽しい体験でした。また機会があればぜひ参加したいです。

高橋悦子（WAVE 利用者）



11月23、24日の両日、船橋イオンモールにて福祉祭りが開催されました。船橋障害者自立生活センター（障害者福祉作業所 WAVE 指定相談支援、一般相談支援事業）があるということを知っていただくという意味もあり、参加することになりました。

何を即売するか、利用者さんとスタッフで検討した結果、クリスマスが近いこともあり、クリスマスバージョンということに決まり、「クリスマスカード」「カレンダー」「たまごツリー」「手作り製品（アクリルタワシ、楊枝入れなど）」また、東日本大震災復興、復旧支援を応援していただくということで、平成23年3月11日当時の写真集の展示、宮城県石巻市雄勝町の三陸の海産物などを販売することになりました。

前日の搬入はスタッフが、当日は利用者さんも自主的に参加していただき、商品の並べ方などいろいろ工夫して楽しんで参加している姿がみられ嬉しく思いました。イオンモール開店の時間になりお客様の流れはまずまずでしたが、「いらっしゃいませ」「いかがですか？」という声も聞かれ、袋にいれたり、お金を受け取ったり、回数を重ねていくうちに早くなり、「ありがとうございました」と笑顔で対応してくれました。また、お昼は利用者さんの普段見られない行動や会話など聞くことができました。

二日間にわたりとても良い経験、体験をしたと同時に、この福祉祭りを契機に「自信」と「勇気」を持ってくれる事を願っております。二日間、お疲れ様でした。

根岸皓子（WAVE 職員）

## 長期ピアカンの感想

高柳律（ピアカン参加者）

自分のことを分かってほしい、偏見を持ってほしくない。私もそう思います。そんな気持ちに対するヒントがこの講座にはたくさんありました。自分が無意識に諦めていること、我慢していること、自分を卑下していることと向き合い、自分を自由にするために発信することの大切さを学びました。自由という言葉には、甘美な響きがあります。でも、この講座では自分で責任をとることも大事であると習います。自分の希望が叶うときもあれば、トラブルが起きるときもあります。両方を受け止めることが偏見を取り除き、本当に人と対等な存在として認めてもらえる自由の獲得ができることではないかと思えます。

印象的だったのが、自分のためだけではなく、誰かのためにしてあげられることもあるということでした。障がいの経験者だからこそ、力になれることもあります。困難な問題でも皆で考えれば解決することもあります。

本当にたくさんの学びがあった講座でした。



## ピアカウンセリング長期講座を終えて

杉井みどり（WAVE 利用者）

私は、十数年前にピアカンの短期講座のヘルプをしたことがあった。つまりは交流会の手伝いをしていた当時の外部リーダーが、講座の「ノリ」のまま「ハイ！ハグして！！」とヘルプに入った私たちにも言ったのだ。おかげで私は、お付き合いもしていない男性とハグすることに…。それ以来ピアカンのイメージというと、「気持ちが悪い！！」ということで、凝り固まってしまった。

長らくそのイメージを拭うことが出来ず、講座を受けるに至らなかった。やっと一昨年、昨年と長期講座を受講したのだが、昨年の講座も、気乗りのするものではなかった。というのは「講座」とは言うけれども、ほとんど質問も出ず、受講生がディスカッションすることもなかったのだ。「傾聴」や「クライアントの批判はしない」という基本理念と「質問をしない」「ディスカッションをしない」というのは違うのでは？と一年間思ってきた。

その点、去年は違った。とても良いディスカッションができたと思う。それが良いことか悪いことかの判断はリーダーに任せるとしよう。しかし、今回は本当に気分が良かったのだ。

さて、これからの講座はどうなるか？今年も、受講するか？ゆっくり考えよう。



老いのたわごと その3

## 真冬の亡霊

宮尾おさむ

寒波も一段落した、ある朝だった。Aさんを訪ねてみると、何やら畳に這いつくばって鉛筆を舐めている。相変わらず路上生活者同然のAさん。文字は小刀で鉛筆を削り、ウンウン言いながら書くのだが、学校に行っていないから漢字も知らない。汚れてポロポロになった辞書を引き引きなので、わずかの文字も容易ではない。一体何をしているのか覗き込むと、Aさんは顔を上げて言った。

「見てよ、これ。ナチスがやった障害者の安楽死だけど、本当にこういうことがあったのかね？」

見るとコピーのようだったが、第二次大戦中にヒトラーのナチ党が行なった障害児者の安楽死についての記事だ。

「ネットのウィキペディアで発見したんだけど、20万人以上もの障害者を殺したなんて信じられないよ」

「うん。俺も見たわけじゃないけど、すごいことをやったらしいな」

と、言いながら読んでいくと、1939年（昭和14年）9月、ポーランド侵攻で第二次大戦の口火を切ったヒトラーが、同時に開始した「T4作戦」というもので、こういうことが書いてあった。

T4とは、ドイツの首都であるベルリン市内の地名。そこにあった組織の名称からつけられたもので、ヒトラーは官房長のフィリップ・ブーラーと自分の主治医であるカール・ブラントに命じて、回復不可能な身体障害者や精神障害者に対する安楽死計画を作り実行していった。

— 彼らはガス室に入れられて処分された。ガスは建物の外から車の排気ガスをホースで引き、一酸化炭素中毒が活用された。障害者たちを運ぶバスがあり、車内ではコーヒーやサンドイッチがふるまわれた。さらに毒物注射による殺害、飢餓による殺害もあった —

— 安楽死の専門施設が各地に6つあって、ナチの親衛隊や、秘密警察に狩り出された障害児者たちは、最初はこっそりと、戦争が激しくなるにつれ、公然とガス室へ送られていったのであった —

Aさんはそういう箇所に行き一行一行、赤線を引いていたのである。

「そこにも書いてあるけど、この殺害は重度の身体障害と知的障害を併せ持った子供の父親が、安楽死を認めて欲しいと願い出たのがきっかけだったんだね」とAさんは言った。

「うん、それを利用したヒトラーが、国や社会の役に立たない人間は殺してしまえと考えたんだね。民族の純血を守るためなどと称してね」

「自分たちを優秀な人種であると宣伝したらしいね」

「そうそう。アーリア人という特別な人種なんだとね。日本でも昔、日本人は大和民族という神の血を引く民族で、世界一の優秀な国民なんだというような宣伝を盛んにしていた時代があったけどね……」

そこまで言って突然、私はゾクッとなった。つい先日、なんとか秘密の保護法なるものが国会で成立したが、その前後に靖国神社を参拝した総理大臣が、「先の大戦で戦死した英霊」がどうのこうの言ってたのを思い出したのだ。すると、なにやら亡霊のようなものが、よく晴れた真冬の空を漂っているような気がしたのである。

## WAVE のうごき

### 9月

3日(火)	ガイドヘルパー養成研修
5日(木)	モニタリング
10日(火)	認定審査会
11日(水)	フェイス相談日
18日(水)	FAS-NET 研修
27日(金)	ピアカン長期講座
30日(月)	ランチタイムミーティング
30日(月)	職員会議

### 10月

3日(木)	FAS-net 政策委員会
4日(金)	ピアカン長期講座
6日(日)	誠光園オータムフェスタ
7日(月)	日帰り旅行
9日(水)	フェイス相談日
10日(木)	モニタリング
11日(金)	ピアカン長期講座
12日(土)	障害福祉団体連絡協議会
16日(水)	就労支援部会
18日(金)	ピアカン長期講座
19日(土)	地域福祉連絡会の勉強会
25日(金)	ピアカン長期講座
26日(土)	障害福祉団体連絡協議会
28日(月)	職員会議
29日(火)	FAS-Net 例会

### 11月

1日(金)	ピアカン長期講座
2日(土)	ふらっと船橋シンポジウム
5日(火)	大久保学園来訪
8日(金)	ピアカン長期講座
8日(金)	福祉サービス・地域移行部会
13日(水)	フェイス相談日
15日(金)	ピアカン長期講座
15日(金)	自立支援協議会
16日(土)	地域福祉連絡会
19日(火)	認定審査会
21日(木)	モニタリング
22日(金)	ピアカン長期講座
23日(土)	イオン福祉まつり
29日(金)	ピアカン長期講座

### 12月

6日(金)	ピアカン長期講座
7日(土)	作品展
7日(土)	合同説明会
10日(火)	ピアカン補講
11日(水)	フェイス相談日
13日(金)	ピアカン長期講座
14日(土)	グループホームシンポ
17日(火)	FAS-NET 例会
19日(木)	ピアカン長期講座
24日(火)	ランチミーティング

## 会費納入のお願い

今年度の会費をまだお支払いいただけていない方、同封の振込用紙をご利用の上、お早めにご納入下さいますようお願いいたします。

年会費は、正会員が3,000円、賛助会員が5,000円、団体が10,000円となっております。

同封の振替用紙について

この機関紙には全員の方に郵便振替用紙を同封させていただきました。これは会費、介助料、カンパなどを送っていただく際に、便利なように同封したものです。

なお、納入状況など、ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

## 編集後記

1964年の東京オリンピックのとき、編集子は中学1年でした。開会式の日、自衛隊のアクロバット飛行チーム「ブルーインパルス」が描く五色の飛行機雲を自宅の2階から見ていたことをくっきりと覚えています。また東洋の魔女といわれた女子バレーボールチームの試合、午後1時に始まって9時間を超える死闘となった棒高跳び、ヘーシンクと対戦した柔道の神永、トラックでデッドヒートを演じたマラソンの円谷などが特に強く印象に残っています。その時々周囲の情景とともに。あけまして2014年。次の東京オリンピックまであと6年、少なくともあと6年は生き延びて、今度はメディアを通してではなくリアルで出来るだけ多くの競技を観戦したいと内心ひそかに目標を立てているオリンピック大好きオジさんなのでした。

T 2

## カンパのお礼

前号以降、以下の皆様より温かいカンパをいただきました。

厚くお礼申し上げます。（順不同）

杉井みどり様 和田恭輔様

船橋市社会福祉協議会様

ヨゼフ会高木医院様

発行所 東京都世田谷区砧6-26-21

身体障害者定期刊行物協会

頒価 100円